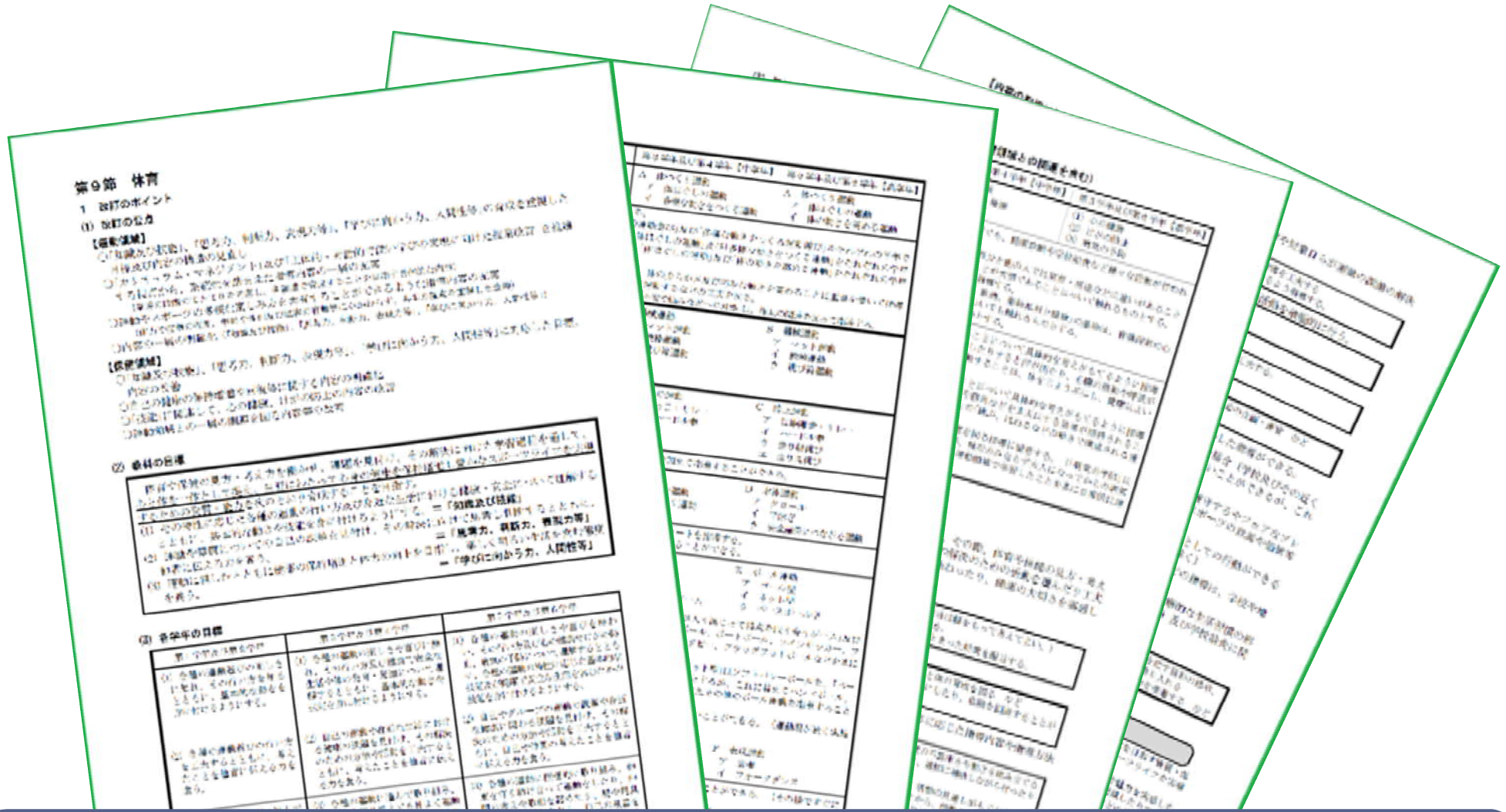


# 小学校 体育



## 事例を通じた評価の具体例

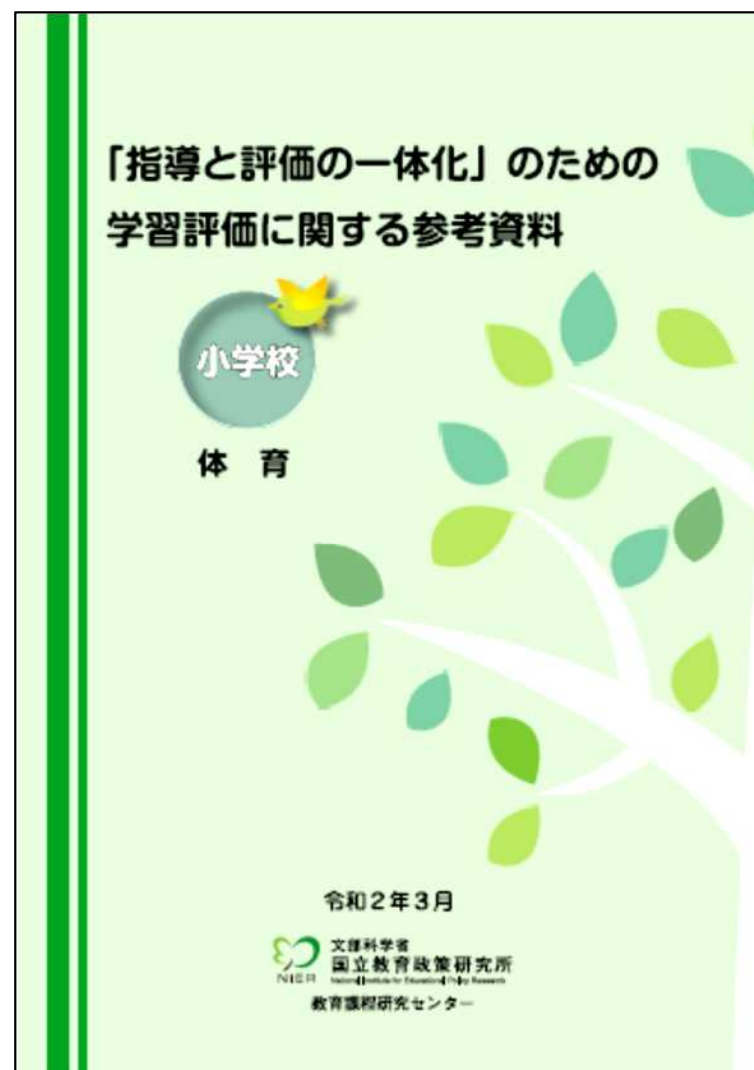
# 各教科の改訂のポイント (教育課程編成の指針)



神奈川県教育委員会HPよりダウンロード可能

# 学習評価について

「指導と評価の一体化」の  
ための学習評価に関する  
参考資料



# 小学校体育科の内容のまとめり

<b>第1学年 及び 第2学年</b>	<b>A 体づくりの運動遊び</b>
	<b>B 器械・器具を使つての運動遊び</b>
	<b>C 走・跳の運動遊び</b>
	<b>D 水遊び</b>
	<b>E ゲーム</b>
	<b>F 表現リズム遊び</b>

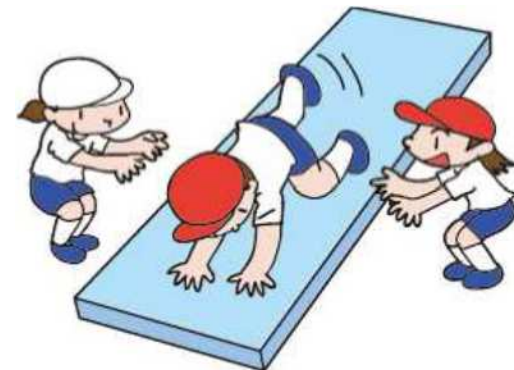
# 小学校体育科の内容のまとめり

<b>第3学年 及び 第4学年</b>	<b>A 体づくり運動</b>
	<b>B 器械運動</b>
	<b>C 走・跳の運動</b>
	<b>D 水泳運動</b>
	<b>E ゲーム</b>
	<b>F 表現運動</b>
	<b>G 保健（1）健康な生活</b>
	<b>G 保健（2）体の発育・発達</b>

# 小学校体育科の内容のまとめり

<b>第5学年 及び 第6学年</b>	<b>A 体づくり運動</b>
	<b>B 器械運動</b>
	<b>C 陸上運動</b>
	<b>D 水泳運動</b>
	<b>E ボール運動</b>
	<b>F 表現運動</b>
	<b>G 保健（1）心の健康</b>
	<b>G 保健（2）けがの防止</b>
	<b>G 保健（3）病気の予防</b>

## 事例概要（運動領域）



### **事例 1** 「マットを使った運動遊び」（第2学年）

運動領域における指導と評価の計画から評価の総括まで

- 指導と評価のための具体的な手順
- 観点別評価の進め方

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 【手順1】 単元目標を設定する

- ・ 学習指導要領本文を参考に設定する。
- ・ 単元目標の語尾は、「～することができると表記する」と表記する。



# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 【手順2】単元の目標から評価の視点を整理する

- ・ 児童の実態等を考慮しつつ、本文をもとに作成する。
- ・ 評価規準の語尾

「～できる」 (技能)

「～している」 (知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)

「～しようとしている」 (主体的に学習の取り組む態度の「健康・安全」以外)

と表記する。

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## ◎ 単元の目標から評価の視点を整理する

(マットを使った運動遊びに関する部分を抜粋)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
マットを使った運動遊びの行い方について <b>知っている</b> とともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転の動きを身に <b>付けている</b> 。	器械・器具を用いた簡単な遊び方を <b>工夫している</b> とともに、考えたことを友達に <b>伝えている</b> 。	器械・器具を使っでの運動遊びの楽しさに触れることができるよう、運動遊びに進んで <b>取り組もうとしていたり</b> 、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動を <b>しようとしていたり</b> 、場や器械・器具の安全に <b>気を付けている</b> 。

- ・ 本文をもとに上記のように作成し、さらに具体化する

# ● 指導と評価のための具体的な手順

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った運動遊びの行い方を知っている。</li> <li>・ マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った簡単な遊び方を選んでいる。</li> <li>・ 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。</li> <li>・ 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。</li> <li>・ 場の安全に気を付けている。</li> </ul>

- ・ 「**知識・技能**」については、知識の評価規準と技能の評価規準に**分けて設定**する。
- ・ 「**思考・判断・表現**」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に**分けて設定**する。
- ・ 「**主体的に学習に取り組む態度**」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の**各項目に分けて設定**する。

# ● 観点別評価の進め方

## (1) 指導と評価の重点化

時間ごとに重点的に指導する内容を絞る

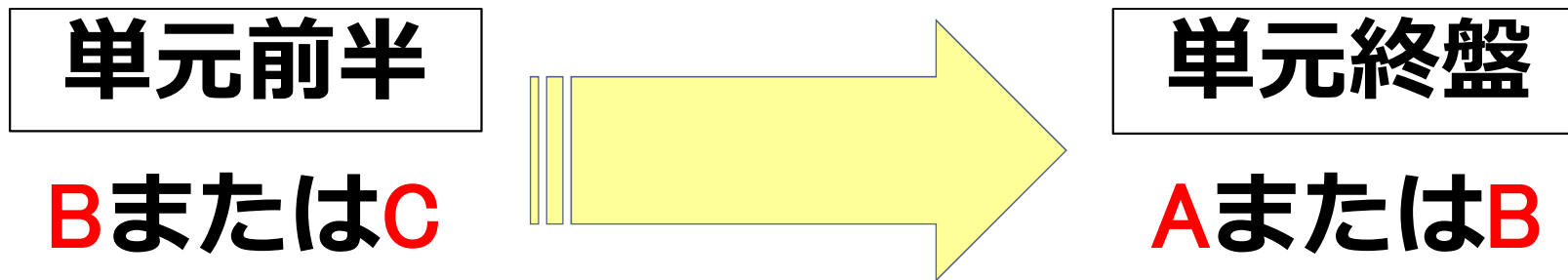
《留意点》

技能や主体的態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。

**重点内容と本時の評価の観点が必ずしも一致するものではない。**

# ● 観点別評価の進め方

## (2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性



指導の充実を図る

単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。

## ● 観点別評価の進め方

### (3) 指導と評価の計画の柔軟な運用

評価のための指導にならないようにすることは言うまでもないが…

**育成を目指す児童の姿を評価項目の視点から想起し、児童の実態等に応じて、適宜修正を加えながら柔軟に作成することが大切である。**

## 事例概要（保健領域）



### 事例 6 「体の発育・発達」（第4学年）

保健領域における指導と評価の計画から評価の総括まで

- 指導と評価のための具体的な手順
- 観点別評価の進め方

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 1. 単元の目標

(1) 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することが**できるようにする**。

【知識】

(2) 体の発育・発達について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現することが**できるようにする**。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 体の発育・発達について、健康の大切さに気づき、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことが**できるようにする**。

【学びに向かう力、人間性等】



# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 2. 単元の評価規準

### 知識

- ① 身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ③ 思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**
- ④ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたり**している。**

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 2. 単元の評価規準

### 思考・判断・表現

- ① 体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。
- ② 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えたとともに、考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。

# ● 指導と評価のための具体的な手順

## 2. 単元の評価規準

### 主体的に学習に取り組む態度

- ① 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで**取り組もうとしている。**

# ● 観点別評価の進め方

## (1) 児童の学習改善につなげる評価

保健の学習の評価活動は、大きく分けると、以下の三つの局面が考えられる。

- ① 児童が、**保健に関する知識や関心をどの程度もっているのかを見取る**とともに、児童の発達の段階や態度、発言、行動などから、学習内容の重点等を鑑み、授業の計画を立てる局面。

(診断的評価)

## ● 観点別評価の進め方

②単元の保健の**学習**の中で、**児童がどの**  
**ように変容しつつあるのかを見取り、**  
次なる課題を提示したり、指導の在り  
方の修正を考えたりする局面。

**(形成的評価)**

## ● 観点別評価の進め方

③保健の学習が**目標に対してどの程度まで達成できたのか**を、児童の学習状況から見取る局面。

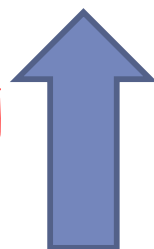
**(総括的評価)**

# ● 観点別評価の進め方

## (2) 指導と評価の一体化

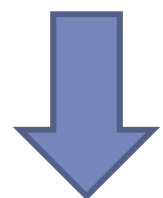
**「十分満足できる」** 状況

質的な高まり



児童の姿は多様に想定される

「おおむね満足できる」状況については、児童の学習する姿をある程度想定し、具体的に示すことが必要



達していない

**「努力を要する」** 状況

## ● 観点別評価の進め方

「努力を要する」状況



追ってその状況を観察していく

指導や支援を工夫することが必要

例

- ・ 新たな発問を加える
- ・ 具体例で考えさせる
- ・ 一例を挙げさせてみる
- ・ 友達と意見を交流させてみる

それぞれの場面に応じた工夫が求められる



# ● 観点別評価の進め方

## (3) 基本的な考え方

# 評価

資料の収集・分析に多大な時間を…

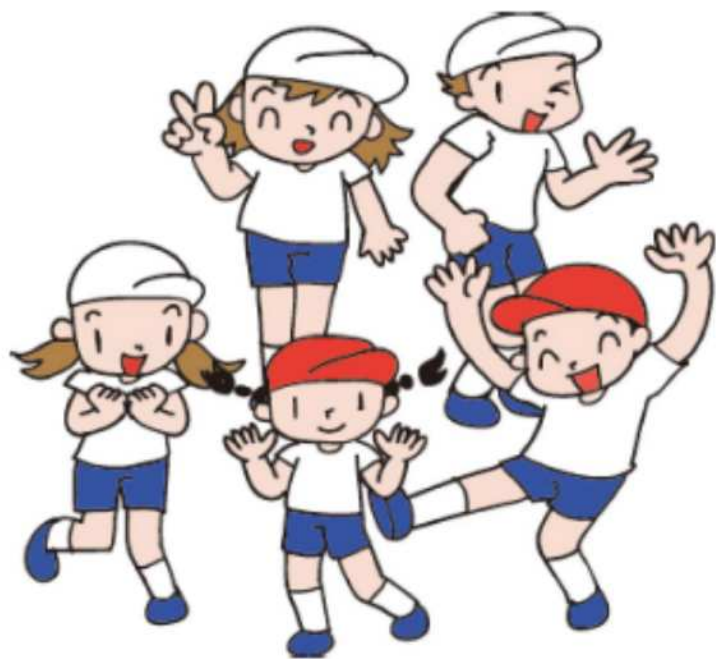


## 効果的・効率的な学習評価へ

- ・ 3 観点の評価を重点化
- ・ 1 時間に多くても 2 観点
- ・ 全員の記録を残す場合は精選
- ・ 「主体的に…」は最後の時間に総括として

# 「知識・技能」の評価

について



## 事例2 「高跳び」（第4学年）

### 「知識・技能」の評価



## 知識・技能の評価の考え方・進め方

児童が運動の楽しさや喜びを味わう

- 観察
- 学習カード
- ICT機器 など

目指すことは…

- 運動の行い方についての知識を習得
- 動きを身に付ける

## 知識・技能の評価の考え方・進め方

### 児童が運動の楽しさや喜びを味わう

低学年段階では、課題となる動きが身に付いている児童は、その運動の行い方、特に動きのこつやポイントを理解しているものとして見取ることができる。

目指すことは…

- ・ 運動の行い方についての知識を習得
- ・ 動きを身に付ける

## 知識・技能の評価の考え方・進め方

### 児童が運動の楽しさや喜びを味わう

低学年段階では、課題となる動きが身に付いている児童は、その運動の行い方、特に動きのこつやポイントを理解しているものとして見取ることができる。

低学年の「知識・技能」の評価規準の語尾（例）

「～遊びの行い方について、言ったり**実際に動いたり**している。」

## ●単元の目標（知識・技能）

高跳びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができるようにする。

## ●単元の評価規準（知識・技能）

- ①高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。
- ②踏切り足を決めて跳ぶことができる。
- ③3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。
- ④膝を柔らかく曲げ、足から着地することができる。

## ●単元の目標（知識・技能）

運動領域の「知識・技能」は、「知識」と「技能」の評価規準を分けて設定します

## ●単元の評価規準（知識・技能）

- ①高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。
- ②踏切り足を決めて跳ぶことができる。
- ③3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。
- ④膝を柔らかく曲げ、足から着地することができる。



# 指導の工夫と評価の方法

**習得を目指す知識や技能**

★どうなれば達成なのか分かりやすい場づくり

★オノマトペや音（リズム）など → 明確化

**分かりやすくなるような指導の工夫**

結果として…

**児童**

見合い・教え合いを促進

**教師**

結果として…

明確な学習状況の見取り

## 知識・技能 規準④

「膝を柔らかく曲げ、  
足から着地すること  
ができる。」



- 足からマットの上に着地できているか
  - 体のバランスを保ちながら着地できているか
- ※安全の確保に留意することは必須**

## 知識・技能 規準②

「踏切り足を決めて跳ぶことができる。」



### ● 踏切り足にゴムバンドを付ける

→児童自身も見ている教師も友だちも、

どちらが踏切り足か分かりやすくなる。

# 指導の工夫と評価の方法（具体例）

## 知識・技能 規準③

「3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。」



レッ                      ツ                      ゴー！

- 踏切り位置に、輪や踏切り板を置く
- 3歩の助走を口伴奏を用いて跳ぶ  
→課題の可視化や音の合図でポイントを明確に！

## 知識・技能 規準③

「3～5歩の助走から強く踏み切って上方に高く跳ぶことができる。」



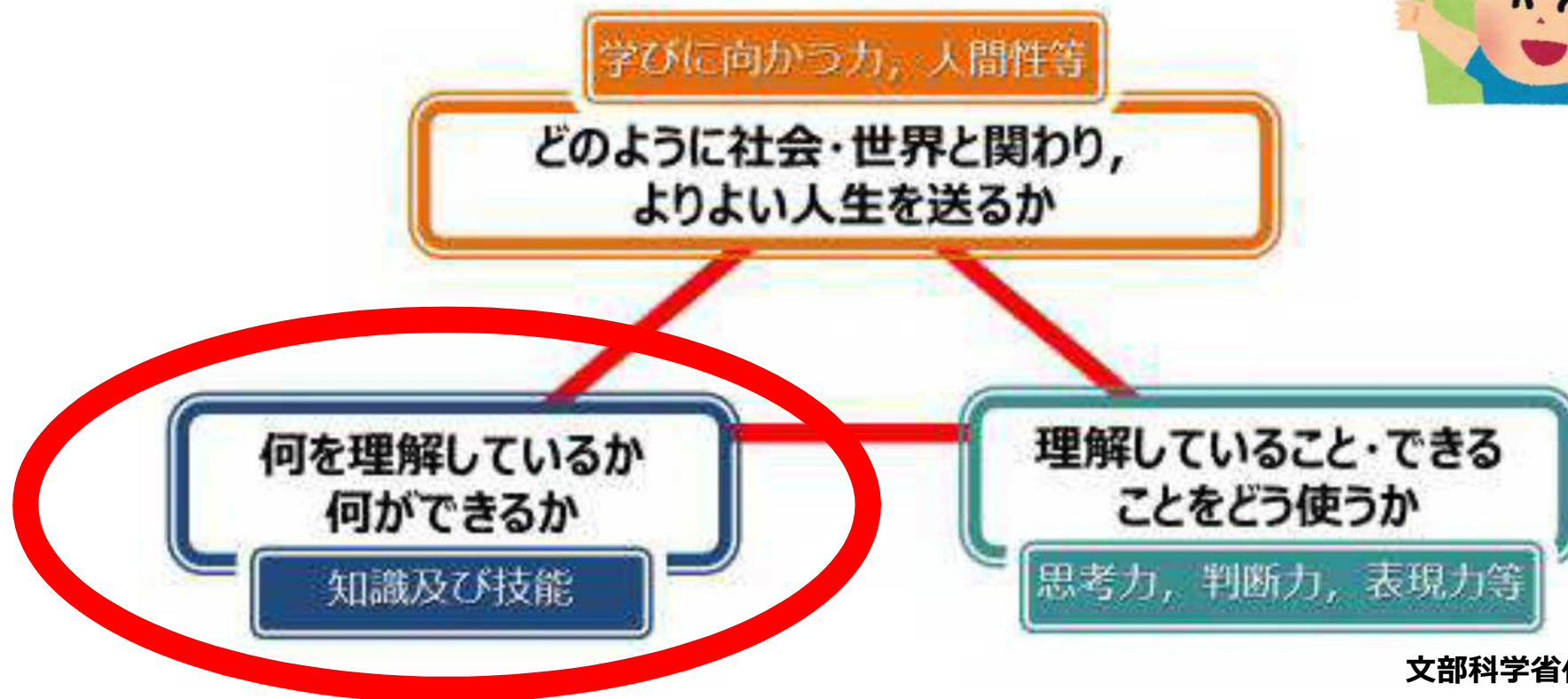
- ICT機器を用いて動きを確認する
  - 児童相互の見合い教え合いを促進  
運動の行い方の理解を促す
  - 教師の学習状況の見取りについての情報





## 事例7 「心の健康」（第5学年）

### 「知識・技能」の評価



## ●単元の目標（知識・技能）

心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処について、理解することができるようにするとともに、不安や悩みへの対処についての技能を身に付けることができるようにする。



## ● 単元の評価規準（知識・技能）

- ①心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
- ②心と体は、深く影響し合っていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
- ③不安や悩みへの対処には、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
- ④不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などについて、理解したことを言ったり書いたりしていると同時に、それらの対処ができる。

## ●単元の評価規準（知識・技能）

- ①心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。

保健領域の「知識・技能」は、「知識」と「技能」を一体とするための評価規準を設定します

言ったり書いたりしている。

- ④不安や悩みの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などについて、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの対処ができる。

# 保健領域の「技能」

「心の健康」 → 呼吸法

「けがの防止」 → 手当

# 学習カードの工夫例

○「やってみよう」自己評価 できる Y → N 今一步

気持ちを楽にしたり, 気分を変えたりする方法

深呼吸	1回目		ストレッチ	2回目	
	Y	N		Y	N
お腹にたまるように鼻で深く息を吸うことができる	Y	Y	気持ちいいところまで筋肉を伸ばすことができる	Y	Y
口から細くゆっくり息を出すことができる	Y	Y	筋肉を緩めることで、筋肉の伸縮を意識することができる	Y	Y

評価1 場面で活用した自己評価カード (例)

○不安や悩みの対処の仕方について、次の言葉を使って、本時の学習で分かったことを書いてみよう。【深呼吸・ストレッチ】

不安や悩みがあるときは、 \_\_\_\_\_

書き出しを限定する

キーワードを提示

評価2 場面で活用した学習カード (例)

技能  
部分

一体として  
指導・評価

知識  
部分

# 学習カード 「十分満足できる」例

## 評価②「十分満足できる」状況と判断する児童の具体的な姿の例

不安や悩みがあるときは、気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするために、深呼吸やストレッチを使うといいことが分かった。自分は、最近勉強しているとイライラして長続きしないので、ストレッチを活用してみたいと思う。また、切羽詰まった時など、時には深呼吸のようなものも重要だと思った。

**具体例を挙げて記入している**

不安... 気  
気持ちを楽にしたり、気分を変えたり、簡単に対処ができることが分かった。深呼吸は、胸だけで呼吸していたので始めはできなかつたけれど、だんだんやっていくうちにやり方が分かってできるようになった。ストレッチも筋肉の伸縮を意識してやるといいことが分かった。

## 保健領域 技能

## 健康な生活における 基礎的・基本的な技能

実習を通して理解したことができているかを評価する

- ➡ 知識と技能を一体とするための評価規準を設ける必要がある
- ➡ 知識及び技能を一体化するための授業展開
- ➡ 評価に役立つ学習カード等を工夫する

## 保健領域 知識・技能

領域の特性から  
ほぼ毎時間評価の対象となる

より妥当な評価を行うために…

- ➔ 単元を通して授業中と授業後で評価する内容を考える
- ➔ 観察、学習カード、ペーパーテスト等多様な評価方法を組み合わせる

評価計画を工夫する必要がある